



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2024.8.25 号

夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

「どうしたの」「たいへんね」「ごくろうさま」

テレビに出るようなしゃべりのプロの講演を聞いたことがありますでしょうか？私はサッカー解説者の松木安太郎さんと「料理の鉄人」に出演していた服部幸應さんと「夜回り先生」こと、水谷修さんの講演を聞いたことがあります。



松木安太郎



服部幸應



水谷修

松木さんと服部さんは、さすがに場慣れしているというか、講演直後から聴衆は飲み込まれているような状態でした。アイスブレイク（緊張のほぐし方）がうまかったです。

ある調査では、「人前で話すこと」ことが「死への恐怖」よりも恐ろしいという結果が出たといえます。「お葬式で弔辞を読むよりも、棺桶に入っている方が怖くない」と話したコメディアンもいます。それくらい人前で話すことは難しく、その上で面白い話をするとなると大変です。

水谷先生は薬物依存の子どもたちをテーマに講演活動を続けています。テレビではいつも眉間にしわを寄せて厳しいコメントばかりしているので、講演もさぞかし重たい雰囲気なのかなと思っていましたら…真逆でした。最初はクイズから入り、聴衆を参加させて、ドカンドカンと笑いを取っていました。講演時間の大半は面

白い話ばかりで、最後の 15 分に重たい話で泣かせます。プロです。

ところで今日は「尾木ママ」の講演の話です。といっても、私が直接聞いたのではなく、その講演記録をある人のブログで読みました。それはこんな内容でした。



尾木ママがまだ中学校に勤務していた時のことです。校内を歩いていると「ガチャン！」とガラスの割れる音がしました。現場に行くと、男子生徒がいました。尾木ママは言いました。

「どうしたの？」

その男子生徒は、親からかなり説教されてストレスが溜まっていたことなどまくし立ててきました。尾木ママはその話を黙って聞いていました。そして、

「たいへんね」

と一言。しばらくすると生徒はガラスを片付け始めました。尾木ママは手伝ってあげました。そして最後に、

「ごくろうさま！」

とねぎらったそうです。

この3つのことば、「どうしたの？」「たいへんね」「ごくろうさま！」を夫婦関係や親子関係でも試してほしいと尾木ママは話したのです。これは「傾聴の姿勢」です。カウンセリングマインドですね。

尾木ママこと尾木直樹さんのキャリアは男子校の海城高等学校から始まりました。そのときは今のような「オネエことば」ではありませんでした。その後男女共学の学校に移った時、女子生徒といかにうまくコミュニケーションする

か工夫しているうちに今のスタイルになったと
います。つまり母性的関わりです。

教師として生徒を教え導くには、まず「基本的信頼感」が大切です。これがないと、どんな話もただの説教になり、聞き入れられません。先ほどの生徒がガラスを割った件でも、もし尾木ママが頭ごなしに

「コラ！なにやってんだ！」

と怒鳴っていたら違った展開になったことでしょう。尾木ママはまず生徒との「基本的信頼感」を築こうとしたのです。それにはまず「傾聴」です。

「どうしたの？」

怒られないとわかった生徒は言い訳を始めます。それを黙って聞きます。その上で、

「たいへんね」

と受容する。怒られると思っていた生徒は、先生からねぎらわれてしまうと、逆に居心地が悪くなったことでしょう。あわてて後片付けを始めます。

「ごくろうさま！」

で終了です。怒る必要はなく、やさしいことばかけで信頼関係を築くことが大事とのこと。

ところでこんな言葉があります。

「わが子はいいい子、いい子はわが子」



これは日本にユング心理学を紹介した、河合隼雄さんのことばです。わが子はいいい子とは母性であり、よい子はわが子の方は父性であるといい

ました。

わが子であればどんな子であっても「いい子」であるというのは、まさに母性的な無条件の愛です。一方父性には条件が付きます。「いい子」でなければわが子ではないといったところでしょうか。

母性的関わりも父性的関わりもともに必要です。しかし順序があります。まず母性、その後父性です。

基本的信頼感とは、母と子の1対1の関係がベースになります。自分のことをまるごとわかってもらえた感動が、その子の自信の土台となり、勇気の源泉となります。

やがてその1対1の関係が崩れ、子どもは社会に入っていきます。そこには「評価」があります。「比較」があります。その中で「負けないぞ！」という強さが求められます。ここに父性的関わりの必要が出てくるのです。

しかしこの父性的関わりが強すぎると、子どもはつぶれることもあります。特にコロナ禍以降、子どもの心は変わってきたという教育関係者の話をニュースで読んだことがあります。子どもの鬱はますます増えることでしょう。

幼児期までは「わが子はいいい子」の全受容が必要です。その上で尾木ママのいう3つのことば「どうしたの？」「たいへんね」「ごくろうさま！」などもお試しいただければと思います。
(終)